1 月 28 日のメッセージ

聖書：ヨハネによる福音書　8：　21 – 36

「わたしの言葉にとどまるならば」

「神を信じて生きている」ことを公言していると、こう言われることがあります。「信じていて何かメリットはありますか」と。まるで、何かの御利益だけを求めているように受け取られているのだと感じます。

一方、「信じているのに不幸なことが起こるのですか」と言われることもあります。信じていれば全ての災厄から逃れられるかのように思っているのでしょう。

信じて生きることは、万能の武器や防具を備えることではありません。しかし、外野からは違って見えてしまうのだろうと思います。

ヨブが辛い目に遭っていると聞いて、テマン人エリファズはしたり顔で言います。

「あなたがかつて築いた財産は、実は悪事を働いて得たものだったのでは？」と(「あなたは甚だしく悪を行い／限りもなく不正を行ったのではないか。」ヨブ記 22:5)。

「神に従っているふりをしていただけだったのを、神は見抜かれたのだ。だから、神と和解しなさい」と(「神に従い、神と和解しなさい。そうすれば、あなたは幸せになるだろう。」ヨブ記 22:21)。

ヨブの本質と向き合おうとせず、自分に理解できる範囲でしかものを見ようとしません。正しいのは常に自分であって、愛をもって相手を受け入れようとしていません。自分という殻の中に閉じこもって、自分に縛られています。

神は、そのような人間を自由にするために教えてこられたのではなかったでしょうか。神を愛し、隣人を愛することは、「自分」を解放するためではなかったのでしょうか(わたしが書くのは新しい掟ではなく、初めからわたしたちが持っていた掟、つまり互いに愛し合うということです。愛とは、御父の掟に従って歩むことであり、この掟とは、あなたがたが初めから聞いていたように、愛に歩むことです。」ヨハネの手紙二 5-6)。

放っておくとつい、「自分」に戻ってしまおうとするのが人間です。だからこそ、いつも神に聞き、イエスに聞く必要があります。御言葉に立ち返る必要があるのです(「よこしまな自分の道にそれて行く者を／主よ、悪を行う者と共に追い払ってください。イスラエルの上に平和がありますように。」詩編 125:5)。

ところが、こう言うとまた外野からの声が聞こえます。「信じるとは自分を棄てて、神の言いなりになることですか」と。まるで、神の操り人形になるかのように思っています。

もちろん、決してそうではありません。

「わたしの言葉にとどまるならば、あなたたちは本当にわたしの弟子である。あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。」(ヨハネによる福音書 8:31-32)

神の言葉に、またイエスの言葉に聞いて自分を見つめ直し、しっかりと動けるように鍛錬すること。それが「主の言葉に留まる」ということです。銘々が勝手に判断して自分勝手に動くのではなく、神の思いに従うとはどういうことか考え、神の思いの実現のために協力していくことが大切です。

先日の飛行機事故では、客室乗務員たちの正しい判断が賞賛されました。一人でも多くの人が助かるために、今、必要なことは何か、その場の判断ばかりではなく、日頃の研鑽が全員無事脱出という結果につながりました。彼らはマニュアルに縛られて不自由だったのではありません。むしろ、従うべきものがあったからこそ自由に判断できたのです。

改めて自分に問います。「私は今、『自分』に従って不自由になろうとしてはいないか」と。

これからも主の言葉に留まり、鍛錬を続けて参りましょう。